



第 69 号
(年 4 回発行)
編集発行 弘学委員会
前報委員 弘学委員会
印刷所 (有)小野印刷所

吉岡学長より ハンドベル寄贈される



この9月に吉岡利忠学長より、ハンドベルの寄贈がありました。ハンドベルクワイアが念願だったシューマリック社製の重いベル5音(B3、G3)とメロディーチャイム3オクターブ(37音)です。驚きと共

にうれしさと感謝で一杯です。学生が誇らしげにそして楽しんで、ベルを交互に持つては鳴らしている姿は夢のようです。ちょうど学祭でメロディーチャイムが入る曲を準備していたところで、学祭のミニコンサートで初演奏を果たしました。毎年学祭のコンサートを聞いて頂いている方々から、重い



シューマリック社製ハンドベル (5音)



メロディーチャイム (37音)

またメロディーチャイムは柔らかな優しい音色が特徴で、これから今以上に演奏曲にも幅がで、楽しい演奏が出来るかと期待しております。

願わくば演奏者ももっと増えてくれることを願うばかりです。(文責 宗教部)

2017年 スポーツ大会レポート

学友会執行委員長 関戸 颯汰

例年、夏季休業に入る時期にスポーツ大会を開催していたが、今年度から熱中症対策として後期開始日の前日へと移し、九月二十一日に開催し

た。結果として暑すぎず涼すぎず、スポーツに適した気温で行うことが出来た。競技参加者は約150人程度で、そのほかにも応援団が駆けつけ、にぎやかなものになった。

競技種目は例年と同様、男女別のバドミントン、バレーボール、バスケットボールである。今年の参加チームは男女合わせて、バドミントンは13チーム、バレーボールは13チーム、バスケットボールは9チーム出場した。各種目男女別に優勝チームとチームリーダー名を紹介する。



社会福祉学部4年 貝塚公祐 (女子)

チーム「研究室」

看護学部1年 谷川穂乃佳

バレーボール (男子)

チーム「鳴海財閥」

社会福祉学部4年 浅沼佑耶 (女子)

チーム「SPG」

社会福祉学部3年 松尾祐樹

バスケットボール (男子)

チーム「Straw hat」

バドミントン (男子) チーム「こうすけ」

元からの入学者の占有率が県内他私大と比較してもかなり高い。しかし、県内の地元進学率が頭打ちの状態では、今以上に県内から学生を集めることは困難である。県外入学者の多い看護学部であっても不安材料は多い。新戦略会議(八月)の分析資料では、現時点で文・社両学部は例年並みの志望者を確保しているが、看護学部は昨年度で四割減というデータであった。

優勝チーム・準優勝チーム・3位のチームは賞金・賞品を獲得した。ただ惜しむらくは、社会福祉学部と看護学部の出場者が多い一方で、文学部からは少ないことである。また、今年度はスポーツ大会を運営する学友会の人数がとて少なかつたが、何のトラブルもなく、怪我もなく、無事に開催・運営し、終えることが出来た。



自分たちのチームを作り、練習して、ほかのチームと試合をすることである。参加者が増えることはもちろん望ましいが、この楽しいイベントをこれから

中長期目標実施計画の 確立・実践に向けて



学校法人弘前学院 理事長・学院長 阿保 邦弘

て一四の大学が六大学に統合され、共立薬科大学など実質八大学の名前が消えている。ところで、八月二〇日付日経新聞には「定員割れ私大、補助金減額」の記事が載っていた。また、八月二三日には「地域

における質の高い高等教育機会確保のための方策について」連携と統合の可能性」(文科省)の発表があった。さらに、八月三〇日には「地方大学振興では、東京の大学による地方へのサテライトキャンパス設置促進に向けた

調査研究費用5000万円を新たに求めた。若者の東京一極集中の是正を図る」(官庁速報)という情報が流れた。いずれも深刻な内容だが、特にサテライトキャンパスが県内に実現すると、本学への影響は計り知れないほど大きい。さて、八月三日(木)には、第二回情報交換会が開催された。

「高等教育総合研究所」による学生募集にかかわる分析が中心テーマである。一八歳人口の急激な減少に伴って、数年後には大学入学者数が7万人ほど減少すると予想していた。そのしわ寄せは中小規模の

私大に及ぶと考えるのが妥当である。結果的におよそ三〇から四〇大学が消滅する計算になる。言い訳になるが、本学は大学に押し寄せる危機に對して、今まで黙って手をこまねいていたわけではない。2年前からは文科省高大接続会議のメンバーを講師に迎え、数回にわたって研修会を開催してきた。

その時の資料では県内の大学入学者数について、二〇二五年には二〇一五年時点と比較して八〇四人減の二四四四人になると予想している。県内の国公立大の定員数は一八九〇人であるから、残り

本学について言えば、看護学部がかかるうじて定員を確保したとして、文・社両学部でわずかに二七名の入学者を望めるだけである。当然、現在の規模での大学の維持は無理である。先程の分析(高等教育総合研究所)にもどるが、本学は地

三「実施計画策定にあたって(その2)」

「『本学』の置かれている状況」

前号では大学が消えている現状について述べたが、大学間の合併吸収も進んでいる。平成一五年度から二七年度にかけて、私立大学全体とし

「高等教育部」による学生募集にかかわる分析が中心テーマである。一八歳人口の急激な減少に伴って、数年後には大学入学者数が7万人ほど減少すると予想していた。そのしわ寄せは中小規模の

元からの入学者の占有率が県内他私大と比較してもかなり高い。しかし、県内の地元進学率が頭打ちの状態では、今以上に県内から学生を集めることは困難である。県外入学者の多い看護学部であっても不安材料は多い。新戦略会議(八月)の分析資料では、現時点で文・社両学部は例年並みの志望者を確保しているが、看護学部は昨年度で四割減というデータであった。

本学について言えば、看護学部がかかるうじて定員を確保したとして、文・社両学部でわずかに二七名の入学者を望めるだけである。当然、現在の規模での大学の維持は無理である。先程の分析(高等教育総合研究所)にもどるが、本学は地

「弘学祭」行なわれる



2017年10月8日(日)、9日(月)に「弘学祭 TAKE A NEW STEP」が開催されました。昨年は弘前学院創立130周年記念行事と重なり、開催することが出来ず、今年度は2年分の思いを込めて学生と教職員が一丸となって様々な企画を考え、準備を進めてきました。学祭期間中は天候にも恵まれ、聖愛高校SPGによる若さあふれるパフォーマンスでスタートしました。(4面に続く)



談話室

ストレスへの対処について

看護学部 講師 菅原 大輔



日本では精神疾患を有する総患者数が392万人以上(厚生労働省「患者調査」平成26年時点)と報告されており、そのうち24歳以下では37万人近くに上る。高校生や大学生でも精神的な問題で病院を受診するケースが増えている現状を考えると他人事ではない。その原因を突き詰めていくと、ストレスを感じたときへの対処がうまく機能していないことが要因の一つにある。ストレスは自身が認知して

心身に影響を及ぼすことが多い。そのため、放置、蓄積することにより自律神経失調症やうつ病など重い病気に進展する危険性もある。ここではストレスから身を守るストレスコーピングの概要について話していく。

Stress Coping は直訳するとストレスへの対処法という意味を持つ。誤解されやすいが、ストレスを元から断つことではない。うまく付き合っていくことも含まれる。ストレスコーピングは大雑把に3つに分類される。

①問題そのものに焦点をあてたコーピングはストレスサー自体を取り除くもしくは遠ざけることである。②情動に焦点をあてたコーピングは、認知の仕方を変える、すなわち、自分自身のストレス源への考え方を考えることを指す。精神科においても「認知療法」などがあり、思考パターンが悲観的もしくは否定的な場合にその修正を図ることだが、日常生活上でも役立つことがある。

③最後に、ストレスを解消するコーピングだが、受けたストレスを発散させる方法を指す。これは誰もが何らかの形で実践していることで、旅行や趣味などの気晴らしや、誰かに相談するなど情動表出などがある。この3種類を平行して実行することが大事である。

生活する上で、ストレスのからまない状況は少ない。そのため自分自身で工夫してストレスに対処することが求められる。他人の真似をするのではなく、自分に合ったストレスコーピングを見つけることも大学生活で必要なことだと考えます。

「①正しい情報」「②誤った情報」「③悪意に満ちた情報」の三つがある。ここに「③悪意に満ちた情報」は、人々を誤った行動に導くことが可能であり、その対処が問題となる。対策としては、「複数の情報源からの情報を比較する」「客観的に判断する」ことをあげ、「物事の本質を見極める目」が今こそ我々に必要となった時代はないのではないかと説かれた。加えて、よく「国民は皆そう思っている」などと権威のある人が発言すると、我々は権威に弱いのでそのまま信じてしまいがちだが、それが正しいかはきちんと判断しなくてはならないと述べられた。

第二に、「解釈の多様性」について説かれた。統計資料に基づいて論じられる場合でも、それは一つの見方であって、実はさまざまに解釈できる。日本の三大疾患などといった病気の情報についても、注意が必要である。また、情報にはうそが含まれているかも知れない。よく「国民は皆そう思っている」などと権威のある人が発言すると、我々は権威に弱いのでそのまま信じてしまいがちだが、それが正しいかはきちんと判断しなくてはならないと述べられた。

途中、同じ長さなのに加工すると違った長さに見えるといった「錯視」の例から、見え方は操作できることを指摘され、我々はいろいろなことに影響されやすいことをあらかじめ知っておくべきだと説かれた。

講話では、具体例を適宜示しつつ、わかりやすく解説され、聞き手は内容をよく理解できた。

ヒロガク教養講話「特別講話」
「多角的視点の大切さ」
—情報過多時代を生き抜くために—

豊橋創造大学教授、後藤勝正氏

七月二十七日(木)、本学礼拝堂においてヒロガク教養講話「特別講話」が開催された。講師は、後藤勝正先生。その折の内容をここに紹介したい。後藤先生は、現在、豊橋創造大学大学院健康科

学研究所の研究室長で、骨格筋の生理学のほか、宇宙医学やスポーツ医学などの健康科学を研究分野とされている。平成十九年四月より本学客員教授としてご指導いただいている。

初めに何が正しいニュースで、何が正しくないのか」という問題を提示された。その具体例として、アメリカのトランプ大統領の「フェイス・ニュース」発言にまつわる問題を取り上げられた。

この問題を出発点にして、第一に「情報氾濫社会における多角的視点の重要性」を説かれた。二〇〇〇年以降、インターネットの急速な普及により、さまざまな情報が氾濫する社会となり、その中で、我々は情報といかに向き合おうかが問われている。情報には、

末筆ながら、後藤先生に感謝申し上げる次第である。

研究紹介 38

「役に立つ」学びの探究
— 榎橋源太郎に導かれながら —

文学部 准教授(社会教育学) 生島 美和



みなさんにとって博物館とはどのような場所ですか?どんな時に博物館に行きますか?

戦後直後に制定された博物館法には「(博物館は)一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーションに資するために必要な事業を行い」と書かれています。すなわち人々が実物資料やその背景を見聞しながら自らの教養を高めたり、暮らしのなかでの疑問や関心事について探究したり、素敵な作品や動植物

ことで認知できなくする方法を指す。対人関係であれば相手と適度な距離を保つことや接触を避けるなどがある。しかし、実生活では大変難しい課題でもある。

②情動に焦点をあてたコーピングは、認知の仕方を変える、すなわち、自分自身のストレス源への考え方を考えることを指す。精神科においても「認知療法」などがあり、思考パターンが悲観的もしくは否定的な場合にその修正を図ることだが、日常生活上でも役立つことがある。

生活する上で、ストレスのからまない状況は少ない。そのため自分自身で工夫してストレスに対処することが求められる。他人の真似をするのではなく、自分に合ったストレスコーピングを見つけることも大学生活で必要なことだと考えます。

「①正しい情報」「②誤った情報」「③悪意に満ちた情報」の三つがある。ここに「③悪意に満ちた情報」は、人々を誤った行動に導くことが可能であり、その対処が問題となる。対策としては、「複数の情報源からの情報を比較する」「客観的に判断する」ことをあげ、「物事の本質を見極める目」が今こそ我々に必要となった時代はないのではないかと説かれた。加えて、よく「国民は皆そう思っている」などと権威のある人が発言すると、我々は権威に弱いのでそのまま信じてしまいがちだが、それが正しいかはきちんと判断しなくてはならないと述べられた。

途中、同じ長さなのに加工すると違った長さに見えるといった「錯視」の例から、見え方は操作できることを指摘され、我々はいろいろなことに影響されやすいことをあらかじめ知っておくべきだと説かれた。

講話では、具体例を適宜示しつつ、わかりやすく解説され、聞き手は内容をよく理解できた。

末筆ながら、後藤先生に感謝申し上げる次第である。

「役に立つ」学びの探究
— 榎橋源太郎に導かれながら —

東日本大震災があり、高齢化人口減少、地域の衰退といった社会的課題がますます浮き彫りになるなかで、私は博物館についての研究から少し離れ、そうした地域課題に住民がどのような学びや活動を通じて向き合っているのか、またそれを支援する公民館や行政のあり方について喫緊の研究課題としてきました。なかでも地域防災教育(防災を通じた地域での学び)について、住民自身がその土地に起こりえる災害を科学的に検証したり、それに備えるためにお互いを理解し助け合える仕

に実物教授、研究や留学、博物館実践などから構築されてきた考えを明らかにし、今日の博物館の理論や実践の発展に結び付けようとしてきました。研究に打ち込んでいたある夜には、榎橋先生が私の肩をポンと叩いて微笑む、そんな夢も見ました。

安心・安全に暮らすために、人々はその土地に起こりえる災害を科学的な観点から学ぶ必要がある。博物館について研究していた時はそれほど注視していなかったのですが、このことは実は、濃尾大地震(1891)そして関東大震災(1923)を経験した榎橋源太郎が、実物教授法により科学の知識や考え方を身につけることの大切さを主張し「役に立つ」学びができる博物館を描く原点にしていたことでした。どうやら私は次に、防災教育の視点から榎橋や博物館について探究

今年度は新たな試みとして『親のための就職講座』と題した保護者対象の就職講座を実施いたしました。この講座は、近年の社会情勢や就職環境の変化に伴う就職を取り巻く状況の違い(現代の学生と保護者世代との就活の違い)をご理解いただくことにも、ご家庭でのサポートに役立つ情報を提供するために企画

されました。本学の就職状況やキャリアサポート体制の説明の他、各分野(一般企業・福祉施設・病院など)の講師をお招きし、最近の就活事情や採用したい学生像についてお話しいただきました。

津軽保健生活協同組合健康生院の津川智子氏の講話では、看護師の仕事や就職後のサポート体制(新人看護師への支援等)について資料をもとにお話しされました。

各講師の講話の後は、本学教員および就職課より本学の就職状況や学内での支援行事、各学部の就活状況について報告さ

父母と教職員の会
父母・教職員研修会報告

七月二十九日(土)、本学礼拝堂において二〇一七年度父母と教職員の会父母・教職員研修会が開催されました。出席者は保護者・教職員等を含め四十名でした。

今年度は新たな試みとして『親のための就職講座』と題した保護者対象の就職講座を実施いたしました。この講座は、近年の社会情勢や就職環境の変化に伴う就職を取り巻く状況の違い(現代の学生と保護者世代との就活の違い)をご理解いただくことにも、ご家庭でのサポートに役立つ情報を提供するために企画

されました。本学の就職状況やキャリアサポート体制の説明の他、各分野(一般企業・福祉施設・病院など)の講師をお招きし、最近の就活事情や採用したい学生像についてお話しいただきました。

津軽保健生活協同組合健康生院の津川智子氏の講話では、看護師の仕事や就職後のサポート体制(新人看護師への支援等)について資料をもとにお話しされました。

各講師の講話の後は、本学教員および就職課より本学の就職状況や学内での支援行事、各学部の就活状況について報告さ

なかに疑問や関心事について探究したり、素敵な作品や動植物

なかに疑問や関心事について探究したり、素敵な作品や動植物

なかに疑問や関心事について探究したり、素敵な作品や動植物

なかに疑問や関心事について探究したり、素敵な作品や動植物

なかに疑問や関心事について探究したり、素敵な作品や動植物

なかに疑問や関心事について探究したり、素敵な作品や動植物

なかに疑問や関心事について探究したり、素敵な作品や動植物

なかに疑問や関心事について探究したり、素敵な作品や動植物

なかに疑問や関心事について探究したり、素敵な作品や動植物



父母と教職員の会開催の様子

実習を終えて

看護学部 看護学科4年 佐藤愛祐穂



私は、三年生の後期から四年生の前期にかけて領域別実習をしました。実習場所は病院だけでなく、在宅看護実習では患者さんの自宅へ行き、小児看護実習では発達について学ぶために保育園へ、精神看護実習ではデイサービスセンターへ、老人看護実習では老人ホームなど様々な場所に行きました。患者さんは幼児から高齢者と幅広い方を受け持たせて頂きました。

このように色々実習した中で私が一番印象に残っている実習は、成人看護実習(慢性期)です。患者さんは、疾患によって左下肢に麻痺があり、リハビリをしていました。さらに心疾患があり、不整脈とリハビリ後などの

国試に向けて

看護学部 看護学科4年 藤田 隼輔



看護師国家試験は、自分の人生においてとても大きなイベントであり、自分が乗り越えるべき試験だと捉えています。今年から出題傾向が変更されるため、問題が難しくなることが予想されます。そのため、過去問題をただ暗記するのではなく、一つ一つ理解できるように勉強していく

博物館実習を終えて

文学部 英語・英米文学科4年 奈良 章史



活動後に疲労感が強い状態でした。その心疾患の手術も控えており、不安の中に患者さんはいました。私は身体面だけでなく、精神面でのケア・サポートが必要だと考え、患者さんがどういう声掛けや接し方をすれば不安を少しでも軽減できるのかを意識して実習に取り組みました。患者さんの表情や声のトーン、発する言葉一つ一つについてよく観察しました。そういうところから何かケアに繋がることがあると思えたからです。実習最終日に指導してくださった看護師から患者さんが学生さんに関わるタイミングが良く、疲れた時に脈を取ってくれることで安心して過ごすことが出来たと

私は、中泊町博物館で8月1日から8月10日までの10日間、博物館実習をさせていただきました。実習には、博物館の活動や資料の取り扱い方を学ぶことはもちろんですが、「来館者」ではなく「学芸員」側の視点を常に意識しながら取り組むことを目標に参加しました。

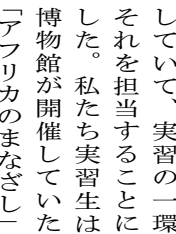
実習内容は、施設のバックヤード見学をはじめ、掛け軸や日本刀などの資料の取り扱い方、下前・今泉分館での資料整理活動、中里・小泊地区の文化財・史跡見学、この企画展立案、お化け屋敷の手伝いなど、とにかく幅広い分野の仕事を体験させていただきました。その中でも特にやりがいを感じたことは、「博物館子ども教室」です。中泊町博物館は特に教育普及活動

るので、その復習もしっかりと行なって、少しずつ自分の知識にしていきたいと考えています。国試は自分との勝負であり、自分がどれだけ勉強して知識を増やせるかだと思われ、しっかりと勉強すれば受かる試験だと考えています。自分の力を過信せず、自分に足りない知識を深めていこうと思います。自分を追い詰めすぎず勉強するの

もあまりよくないと思うので、時々息抜きをしながら勉強していきます。先生や友達の協力も得ながら、看護師国家試験合格に向けて日々努力していこうと思えます。

社会福祉実習を終えて

社会福祉学部 社会福祉学科4年 佐々木優紀



私は、医療法人ときわ会ときわ会病院で患者やその家族の積極的な社会生活や社会復帰、社会参加を目指した支援方法・アプローチを習得することを目標に実習させていただきました。

主に受け持ち患者を設定しアセスメントを行い、個別支援計画の作成を行いました。受け持ち患者との関わりの中で、難しいと感じたのは患者との信頼関係の築き方と患者主体で支援を進めていくこと

の難しさです。私の担当した患者は認知症を患っていて、意思決定能力が低下しており、退院後の生活をどうしていくかが決まっていなかった。私は、患者本人のさまざまな情報を伺い、裏付けを取ることで患者が自己決定をしやすくなるのではないかと考えました。信頼関係を築きながら、入院中どのような点に困っているかや入院前の生活を伺いアセスメントを進めていきました。

その後、アセスメントで得た情報を元に個別支援計画を作成しました。実行まで移せなかつたのは心残りでしたが、実習担当者の方から指導して

2017年度1年生の特待生授与者

二〇一七(平成二九)年度の弘前学院大学特待生(二年生)に、十月三十日(月)十二時より賞状の授与が行われた。今年度の授与者は次の方々です。

- ◆文学部 一年 後藤 悠衣 (弘前南高校)
- ◆社会福祉学部 一年 須藤 咲季 (五所川原農林高校)
- ◆看護学部 一年 蝦名 弘好 (五所川原第一高校)



精神保健福祉実習を終えて

社会福祉学部 社会福祉学科4年 島田 敦史



私は精神科病院と地域活動支援センターで実習をさせていただきました。実習を通して、精神障害を抱えている方に対する偏見が残っていたことをかかわりの中で、気づくことが出来た。

実習では、特に精神科病院での患者さんとかかわり方で悩んだ。病棟見学で、最初は声を

に力を入れており、地域の子どもたちを対象とした「博物館子ども教室」を頻りに開催している。実習の一環としてそれを担当することになりました。私たち実習生は、当時博物館が開催していた企画展「アフリカのまなざし」に合わせ、アフリカの動物をフェルトで切り抜き、飾りつけをしてコラージュを作るというプログラムを企画しました。最初は楽しんでくれるか不安でしたが、子どもたちは貝殻に絵を書いたり、カラーサン

会話が楽しく感じ、生活や退院後に思い描く生活などを聴くことができるようになった。精神科病院では、多職種からなるチームで患者さんの退院に向けての支援を行う。ここでの精神保健福祉士の役割は、患者の生活に関する情報等をチームで共有し、その人が望む生活に近づけることが出来るようになることである。すなわち、患者さんの想いに寄り添い、それを形にするために適切な情報や知識・技術を駆使して支援していることを学習した。

次に、地域活動支援センターでの実習では精神障害を抱えながらも障害とうまく付き合い、生活しているということを学んだ。その中で、精神障害による症状が決して「害」とは限らず、症状を持ちながらも地域で暮らすことが人にとって豊かな生活であると実感した。実習ではかわり方に悩み、それを見つめなおすことの出来た実習であった。今までのかわりを大切にしながら専門職者としての自分を磨いていきたい。

「弘学祭」 報告

8日は、メインイベントである和牛、くまだまさし、ビスケットの3組の芸人さんによる「芸人ライブ」は、開場前から多くの方々が並び、用意した約400席の座席は満席となり、会場は熱気にあふれていた。



2017年度弘学祭レポート

学祭実行委員長 関戸 颯汰

ふれて大いに盛り上がり、また、本学吹奏楽団と卒業生が参加している「岩木ファミリーバンド」とのソロ演奏会も行われ、迫力ある演奏に観客が魅了されました。

今年度は、外部の方の参加協力も多く、環境科学技術研究所および弘前人権擁護委員協議会の展示やDVD放映、プロバスケットチームの青森ワッツとプロ

サッカーチームのプランデュー弘前FCのPRコーナー、6つの福祉関係事業所の出店があり、模擬店も大いに賑わいを見せ、ほとんどが完売となりました。

学祭プレ企画として学祭前日の10月7日(土)に開催した、社会福祉学部葛西教授ゼミと(株)つがるねつとのコラボ企画「精神障がいピアサポート研修会」と青森ワッツ公式戦パブリックビューイングも含め、3日間に渡り多くの方々



軽音部をはじめ、福祉施設さんもご参加いただいた野外模擬店も充実していた。

今年度の学祭のテーマは「TAKE A NEW STEP」である。「これは「新し」ということを強く意識したテーマである。昨年度、弘前学院は創立130周年という節目の年を迎え、その式典のために文化祭が今年へと延期となつてしまいました。そのため実行委員だけでなく、学生全体として今の1・2年生は弘前学院大学の文化祭を経験したことがない年代となつてしまった。しかしこういつた状況であるからこそ、新しい考え方で、新しい手段で、新しい弘前学院大学の文化祭を作り上げようと、立ち上がった思いが、今年の文化祭のテーマにこめられている。

今年度の学祭のイベントは「芸人ライブ」「ダンス大会」「女装・ミスターコンテスト」「吹奏楽の演奏」「カラオケ大会」「軽音ライブ」「ピンゴ大会」であった。その中で今年新しく開催されたイ

また、書道部の作品展示や茶道部茶会、吹奏楽団・文芸誌編集部

文学部企画

イングリッシュカフェ

English Cafeでは、イングリッシュの文化に関する展示や紅茶作りなどの体験を通して、お客様が弘前にいながらイングリッシュに訪問するチャンスを提供した。午後には「コーヒーの街弘前にちなみ、成田専蔵氏主宰「紅い果実」による「コーヒーパフォーマン



名言を超える

ひろがくメイゲン大会

世界各国・あらゆる時代・ジャンルの名句・名言を取り集め、大学ならではの学問的ゲームに取り組んだ。いわゆる「正解」を当てる「知識」を競うのではなく、解答者の人生(？)・経験(？)・実感(？)から、みんなを「うーん」と唸らせる「快答」や「えー？」という「怪答」など、奥深い解答の数々が集まった。



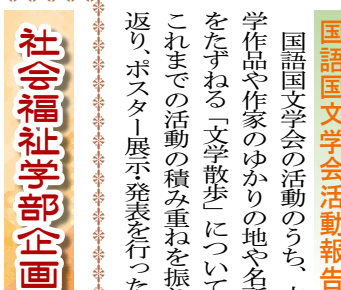
オーデイオ祭

「オーデイオ祭」では、自作のスピーカー(バックロードホーンと自作のアンプ(1000円程度を使って、テスト用音源(たとえ

看護学部企画

映画上映会

福島原発事故を記録した「太陽の蓋」と、東日本大震災での医療・ボランティア活動を記録した「1000年後の未来へ」を上映した。



看護学生の「学び」を体験しよう

看護学実習用のモデルを使って、バイタルサインの計測などの体験を行った。



写真展

教員と学生の撮影した内外、四季折々の写真100枚を展示した。



社会福祉学部企画

シンポジウム

「政治のスタートは住民の発言から」18歳選挙権と請願権(日本国憲法第16条)を高校生と考える」をテーマとしたシンポジウムを開催した。高校生代表として聖愛高校3年生2名も参加した。

招いてのシンポジウム、看護学部からは看護というものについて知ってもらうために「映画上映会」と看護学生の学びを体験しようのコーナー、そして海・郷・山の風景と動植物の「写真展」、またその他絵本「さつちちゃんのまほうのて」の読み聞かせや、弘前学院が誇る国指定重要文化財の「外人宣教師館特別公開、礼拝堂で行う「ハンドベルコンサート」、プランデュー弘前FCの「ブランデューアピールブリス」、成田専蔵主宰の「コーヒーパフォーマン

今年度の弘学祭はいかがでしたでしょうか、楽しんでいただけたなら幸いです。今年度の学祭は、委員長である私も満足いく文化祭を作り上げられたと思います。弘学祭に関わってくれた皆様のおかげです、本当にありがとうございました。

今年度の学祭は、委員長である私も満足いく文化祭を作り上げられたと思います。弘学祭に関わってくれた皆様のおかげです、本当にありがとうございました。

今年度の学祭は、委員長である私も満足いく文化祭を作り上げられたと思います。弘学祭に関わってくれた皆様のおかげです、本当にありがとうございました。

今年度の学祭は、委員長である私も満足いく文化祭を作り上げられたと思います。弘学祭に関わってくれた皆様のおかげです、本当にありがとうございました。